

2. はしご

(1) 床の設置面が滑って、転落

2. はしご (1) 床の設置面が滑った ①

97

牛舎の2階に糞を上げる作業中、はしごを使って2階から降りようとしたときに、はしごが滑り臀部と左足を打撲した。(平成25年11月 午後3時頃、女性・76歳)

事故の概況

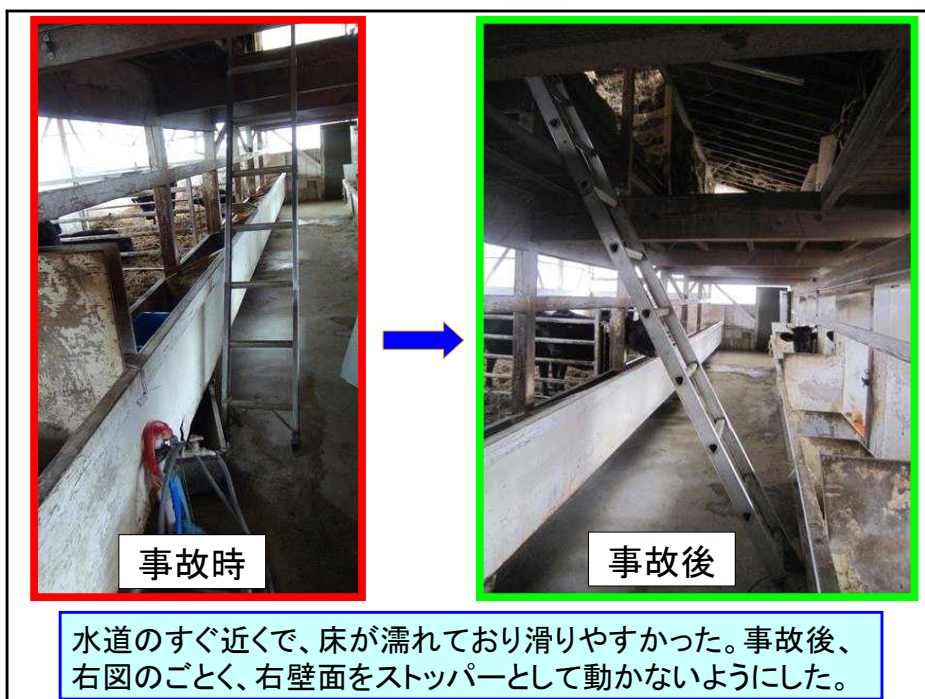
牛舎内で、2階に糞を上げる作業中、はしごを使って2階から降りようとしたが、1～2段降りたところで、床面に接しているはしごの舌が滑り、バランスを崩してお尻からコンクリートの地面に落ち、臀部と左足を打撲した。相当痛かったが、どのように落ちたか分からない。はしごを設置した場所のすぐ近くに水道があり、地面は濡れていた。

すぐに立ち上がれないほど痛かったが、家族には夕方の作業があり病院には行かず、当日は安静にしていた。次の日、総合病院に行きレントゲンを撮ったが骨に異常はなく、臀部と左足首の打撲で、湿布と痛み止めの飲み薬をもらった。その後、3回ほど通院した。しばらく痛みは続き、1カ月くらいは作業も休み杖を使って歩いていた。

事故原因と対策

床面から2階までは2m、通路両側の飼槽面間の間隔は1.26m、通路の全体幅は2.175m、はしごの全長は約2.6mであった。はしごの接地部分に滑り止めがなかった。事故後は、はしごをかける向きを変えて、地面との接触部が餌箱で固定されるように配置し、はしごが動きにくいようにした。なお、はしごの設置場所付近に水道があり、地面が濡れていることが多いにもかかわらず、はしごが固定されていなかった。

事故後の対策では、床からはしごの昇り際が狭く、もう一工夫が必要と考えられる。



倉庫の片付け中、梯子から4m下のコンクリート床に墜落。右足踵骨粉碎骨折。

(平成24年5月 11時半頃、男性・55歳)

事故の概況

倉庫の梁の上の物を片付けようと、約4mの高さの梁に、長さ4.58m (2連はしご)のアルミのはしごを梁にたてかけ、お父さんにはしごの下を押さえてもらい、上から2段目のステップに立って物を取っていた。たまたま梁の上の物が落下して、お父さんが梯子を離し、落ちた物を取ろうとした時、はしごの下が滑り4m下に落下。落ちたところに梯子があり、右足踵を強打。お父さんが奥さんに連絡して軽トラで病院に搬送。

外来で約20分待った。そのうち踵からの出血で床が赤く染まってきた。医師から「こんな時こそ、救急車を利用しなさい」と言われた。なお、血は地下足袋一杯となり、膝上をタオルで止血していたが、出血し続けた。踵の骨が粉碎骨折していて、大きな血管が骨で切れたようだった。翌日午後5時間に及ぶ手術。粉々になった骨を取り出すのに時間がかかったようだ。人工骨、金属での補強等を行った。退院は23日後、最初、両方に松葉杖を使っていたが、医師からは早く松葉杖をやめて自力で歩くよう促された。

事故原因と対策

倉庫内のコンクリート打ちを事故の2週間前に行っていた、見舞いに来た業者から「コンクリート打ちした直後は、表面は大変滑りやすい」と聞いた。また、梯子の下には滑り止めのゴム板が貼ってあるのだが、経年劣化で硬化して弾力が無くストッパーの役割がなくなっていた。また、下を押さえてもらっていた相方のお父さんが、手を離されたのは残念なことである。「何が何でも、手を離すな」、が教訓と言える。

また、梯子の上部に簡易なストッパー、さらに梯子の下のゴム板が簡易に取り替えることができるようにする必要があると考えられた。また、はしごの斜度も70°程度とゆるかったとのことである。



(2) はしごの踏み外し

2. はしご (2) はしごの踏み外し

99

繁殖牛の牛房床に入れる稲わらの準備のため、牛舎の2階にわらを上げる作業中、はしごにて2階から降りる際、上から2段目で足を踏みはずし、左膝などをコンクリート床面に強打した。
(平成19年6月 午後3時半頃、女性・47歳)

事故の概況

午後から牛舎に単独で入り、アルミ製のはしごをかけて2mの高さの2階に上った。さらに1m上にある床の稲わらを2階に降ろす作業をした。作業を終えて、はしごを降りるとき、上から2段目(高さ1.8m)で右足を踏み外し、コンクリート打ちの床に落下。左膝を強打し(ボキッという音がした)、動けなくなった。

大きな声で別棟の牛舎にいたおばあさんと呼び、夫もすぐ来て救急車を手配。15分で到着、約40分で病院へ搬送。直ちに手術。金属板2枚とネジ10本以上で固定し45日入院、リハビリの経過確認のため3回通院。1年後にネジを取り外したが重量物取扱いができず、時折不自由を感じる後遺症あり。左脛骨高原破砕骨折(単純骨折)、胸部打撲、右腕打撲、右膝打撲。

事故原因と対策

いつもの作業ではあったが、この日は飼料の配合をする予定があったので、この作業を早く終わろうと思い、すこし焦っていた。はしごには特に問題はなかった。



3. 鎌

3. 鎌 ー平鎌で稲の隅刈り中、指切断ー

100

草刈り鎌で稲刈り中、左親指先端を切り落とした。

(平成25年9月 午後1時20分頃、男性・41歳)

事故の概況

当日、朝10時頃から稲刈りを始めた。前中は晴れていたが、午後からはポツポツと雨が落ちだし、昼食を取らず稲刈りを行っていた。午後1時過ぎに次の圃場に入り、オペレーターは71歳の父、隅刈りは受傷者とその奥さんが行っていた。当該の圃場24aで概ね整形田であるが、本人が隅刈りしていたところは、大きく膨らんでいて、少しばかり多く隅刈りをしなければならず、昇降路から入ったコンバインが近づいてきて、少し焦っていた。

稲を左手押さえる方向に逆手で持ち、右手の平鎌で刈り降ろすように刈っていた。何回目かの稲束を持って刈っていたとき、左手親指の先端を斜めに切り落とすように切断した。

奥さんがすぐに駆けつけ、車で15分の医療センターに電話をして搬送。手はタオルで巻いていった。病院では1時間くらい待たされ、そのうち足が揺れ出した。

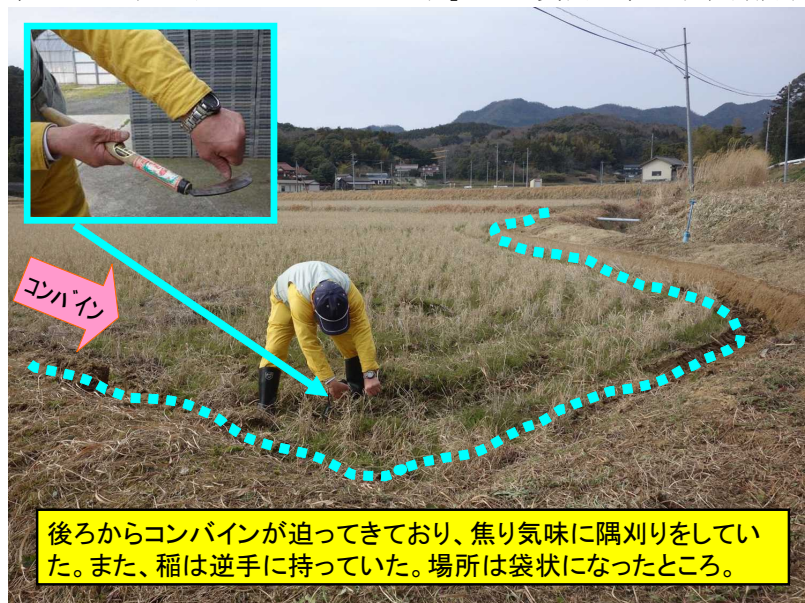
処置は水で徹底した洗浄、その後痛み止め、化膿止めの処方。週2回のガーゼ交換、その後週1回で1ヵ月間通った。現在は完全に親指先端が欠損、不具合を感じる。また、秋作業では、力が全く入らず、他の人を頼んで作業をしてもらった。左手・親指先端切断

事故原因と対策

当日は、次第に天気が下り坂で焦りもあった。

また、使用されていた鎌は、いわゆる平鎌であり草刈り用であった。しかし、島根県ではこの平鎌が通常の稲刈りに使われているとの事であった。「力があるでしょう」と言うのと、「ノコギリ鎌だったら、どのように研いだらいいのです」との質問に、「毎年新調する」とのやりとりに、双方驚きであった。

また、持ち手はいつもは順手であるが、その時は逆手に持っていたとの事。疲れが溜まってきて、そのような不自然な姿勢での刈り手で持ったのかもしれない、雨模様とはいえ、わずかな休憩をとる事で無理な姿勢も防ぐことが可能であったとも考えられる。



4. 斧

4. 斧 一斧で枝打ち中、枝が落下

101

一人でヒノキの枝打ちを斧でして、切り落とした枝で右足甲挫傷。

(平成25年1月 11時頃、男性・79歳)

事故の概況

朝9時、徒歩で家から2km離れた山へヒノキの枝打ちに1人で出かける。9時半から始め、11時頃、地上1.8mで二叉に幹が分かれたヒノキの片方(φ10cm)を1.84kgの斧で切り落とした時、切り落とした幹が右足甲に落下した。長靴に破損はなく、痛みも感じられなかったため枝打ち作業を続行。11時半頃、徒歩で帰宅。長靴を脱ごうとしたら、右側がなかなか脱げず、やっと脱ぐと右靴底内に血液が多量に溜まっており、靴下を脱ぐと甲部が長さ5cm程にカマイタチ状に切れていた。出血が止まらず、患部を包帯で強く巻いた。

14時前、帰宅した妻が玄関先の血痕を見て、夫の受傷を知る。直ぐに息子に連絡、息子の車で形成外科受診。骨に異常なく、止血処置と破傷風ワクチン接種。翌日の午前、形成外科再受診し、傷口の縫合はせず、保存的治療を実施した。その後通院1ヵ月にて完治。

事故原因と対策

枝打ちなどの作業には、ヘルメットの着用が必須である。ヘルメットを着用すると、頭を守るだけでなく、作業への「心のスタンバイ」となり、上からの落下物を避ける体制にも影響し、怪我を防ぐ役割をするように考えられる。「農作業にヘルメットを」推進したものである。また、安全靴の着用も必須である。

また、今回は、自力で帰宅しているが、最悪を想定して、「お年寄りだからこそ、携帯電話の携帯」を勧めたいものである。

